

<http://tipspc.blogspot.jp/2012/03/kvm-5.html>

個人的には、パフォーマンスオプションで

| キャッシュモデル | IO モード |
|-----------|--------|
| writeback | native |

にするのが良いと思う。

標準オプション

ターゲットデバイス

選択しているデバイス名が表示されます。

ソースパス

仮称ディスクのパスが表示されます。

ストレージサイズ

仮想ディスクの論理サイズが表示されます。

読み込み専用

仮想ディスクを読み込み専用に設定します。

共有可能

通常、仮想ディスクは1台の仮想マシンからのみマウント出来るよう排他制御がかかります。クラスタシステムなどで複数の仮想マシンから同じ仮想ディスクへアクセスすることが必要な場合は、ここをチェックすることにより同時にアクセス出来るようになります。

詳細オプション

ディスクパス

仮想ディスクを接続するパス規格を選択します。

選択可能なドライブ。

IDE

HDD, CDROM

SCSI

HDD, CDROM

USB

HDD

virtio

HDD (Guest OS で使用するためには、GuestOS 側に virtio 用のドライバが必要です。)

floppy

フロッピー・ディスク

シリアル番号

仮想ディスクに、シリアル番号を付加します。設定は任意です。

シリアル番号

仮想ディスクに、シリアル番号を付加します。設定は任意です。

Storage format

仮想ディスクのフォーマットを選択します。接続する仮想ディスクのフォーマットに合わせて選択してください。

raw

特定の形式フォーマットされていません。デフォルトで作成されるフォーマットです。

qcow2

QEMU のプロジェクトで開発している仮想ディスクフォーマット

vmdk

VMware の仮想ディスクフォーマット

パフォーマンスオプション

キャッシュモデル

default

サーバのデフォルトに設定します。

none

キャッシュをしません。

writeback

読み込み、書き込みの双方でキャッシュを使用します。

writethrough

読み込みのみキャッシュを使用します。

IO モード

default

サーバのデフォルトに設定します。

native

Linux ネイティブの非同期 I/O を使用します。

threads

POSIX pthread による非同期 I/O を使用します。